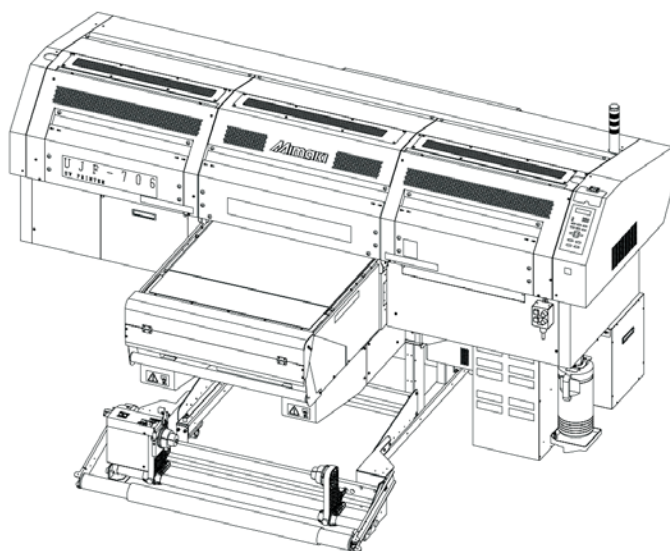


UV PRINTER

UJF-706

オプションロールユニット
ご使用におけるポイント
使い方マニュアル



目次

はじめに	3
メディアについて	4
使用可能なメディアの種類について	4
メディアの特徴について	4
メディアセット時のポイント	5
作図前の設定・確認	6
装置の設定確認	6
作図データの確認	8
作図中の確認	9
日常のお手入れ	10
その他の注意点	11

はじめに

この度は、UJF-706 オプションロールユニットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書では、UJF-706 にオプションロールユニットを取り付けてお使いになるとき、簡単に・安定してご使用いただくためのポイントを説明しています。

特に **25 μ m 厚級のメディアの取扱**については、非常に繊細であるため、メディアの特性等をご理解いただいた上で快適にオプションロールユニットをご利用ください。

UJF-706本体での印刷方法や各種設定については、UJF-706本体の取扱説明書をご覧ください。

使い方マニュアルの最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

© 株式会社ミマキエンジニアリング

All Rights Reserved.Copyright

メディアについて

使用可能なメディアの種類について

UJF-706 では、PP フィルム、塩ビ、ターボリン、FF など、多様なメディアで印刷可能です。詳細については、UJF-706 本体の取扱説明書をご覧ください。

本書では、素材の厚みとコシ（弾力）について注意点を説明します。

厚み（装置仕様は 25 μ m ～ 1mm）

50 μ m 以下の薄い厚みのメディアを使用する場合、延伸処理されたメディア（OPP）をお使いください。

延伸処理されていないメディア（CPP）は、ランプ熱によるメディア膨張、インクの硬化時収縮などの影響を受けやすく、シワや歪みの原因になります。

メディアの状態	見分け方
延伸処理されたメディア（OPP）	手触りがサラサラしている、引っ張りに強い
延伸処理されていないメディア（CPP）	食品用ラップのような粘着感がある 引っ張ると簡単に伸びてしまう

コシ（弾力）

メディアは種類によって伸びやすいもの（ターボリン、FF）と伸びにくいもの（OPP、塩ビなど）があります。

これらのメディアの性質を理解していただくことで、連続印刷等で安定した搬送を行なうことができます。

メディアは中央にセットし、印刷データもメディア中心へ印刷することで、安定した搬送を行うことができます。画像が左右どちらかに寄っている状態で連続印刷すると、インク膜厚のあるメディア部分とない部分での巻取圧左右差が発生し、メディアスキューの原因になります。コシ（弾力）のないメディアの方が、この影響を大きく受ける性質を持ちます。

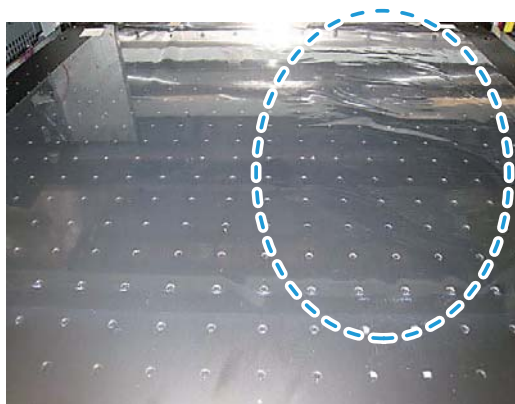
メディアの特徴について

メディアはそれぞれの生産業者のもとで加工・製造されロール上に仕上げられますが、加工工程、素材や季節の影響などにより、シート面が均等な状態で保持されてない場合があります。

適正な状態でないメディアの例



端面の波打ち・シワ



左半分での浮き・伸び

図の状態のメディアでも印刷は可能ですが、ヘッドギャップを高くしなければならない (= 画質の鮮明さを損なう) 場合や印刷中にシワが発生する場合があります。
このようなメディアの状態は UJF-706 では対処できない場合があります、ご使用を控えていただくことがあります。
ご使用になるメディアの状態を確認し、メディアの状態に合わせてお使いください。

メディアセット時のポイント

テーブル面に対してほぼ中央に位置するように、ロールメディアを繰出側へセットします。
メディアが左右均等（装置に平行）になるように張り、巻取紙管へセットします。



- メディアを斜めにセットしてしまうと、メディアスキューの要因になります。
- メディアセットの手順はオプションロールユニット取扱説明書「2章 使い方」をご覧ください。

作図前の設定・確認

装置の設定確認

作図の前に次の項目を確認してください。本確認を行なうことで、無駄なく円滑な印刷が可能です。

メディアセットの方法はオプションロールユニット取扱説明書「2章 使い方」をご覧ください。

確認の流れ

1

テーブルの確認

メディアをセットする前に、テーブル盤面上の清掃を実施します。インク、異物、ホコリ等があれば除去します。

2

メディアセット確認

ロールメディアが、繰り出し側ロールホルダーの根元までしっかりとセットされているか確認します。巻取側の紙管がロールホルダーの根元までしっかりとセットされているか確認します。

3

操作スイッチの確認

ロールユニット（巻取側 / 繰出側）の操作スイッチの設定を確認します。（オプションロールユニット取扱説明書  P.2-2 手順 2）

4

テンションバーの位置確認

テンションバーの位置が床とほぼ平行な状態であるか確認します。（オプションロールユニット取扱説明書  P.2-8 手順 19、 P.2-9 手順 22）

5

テンションバー 上昇防止ストッパのセット

巻取側のテンションバー上昇ストッパを左へ引いてセットします。（オプションロールユニット取扱説明書  P.2-8 手順 20）

6

2本シャフトのセット確認

テーブルユニットの前後にある、メディアをテーブル盤面上へ押し付けるための2本シャフト間にメディアが通紙されているか、各シャフトの外側のシャフトが持ち上がったままになっていないか確認します。

7 ロール保護カバーの確認

巻取側上部にある、ターンバーを覆うロール保護カバーが開いたままになっていないか確認します。

8 ランプ光量の設定確認

50 μ m 以下の薄厚メディアの場合、光量を「ヨワイ」に設定します。(オプションロールユニット取扱説明書  P.2-17)

9 ミストファンの設定確認

ミストファンの強さを設定します。(UJF-706 取扱説明書「ミストファンの強さを設定をする」)

10 ヘッドギャップの設定

推奨値は 1.2mm ですが、メディア端面状態の状態 ( P.4) を確認しながら設定してください。(UJF-706 取扱説明書「ヘッドギャップ値を登録する」)

11 画像データの原点位置確認

RIP 上のデータ位置がメディアに対して適正か(メディアの中央に印刷することを推奨)、また本体原点位置が適正かを確認します。

12 作図前のノズル状態を確認

必要に応じてクリーニングなどのメンテナンスを実施してください。

13 作図開始

作図を実行します。

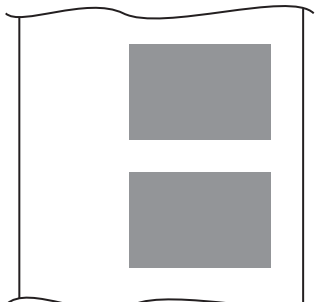
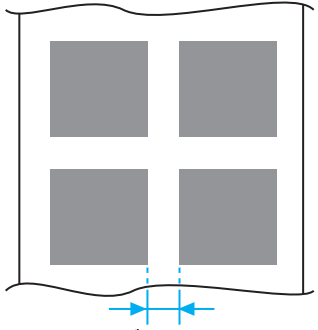
作図データの確認

データの配置とサイズについて

印刷有効範囲は幅 700mmx 奥行き 600mm ですが、データはできるだけメディア中央へ印刷配置してください。

また薄厚メディアの場合、データ外周にデッドスペース (20 ～ 30mm 以上が理想) を取ることで、印刷後にメディア端面でメクレやシワ(メディア詰まりの原因)になることを回避できます。

データのサイズや配置位置により、次のような事例が起こる場合があります。

内容		解決方法
メディア中央に対して、データが左右どちらかに寄っている場合		
	片側の厚みが増すため巻取部での巻取バランスが崩れ、連続印刷長が長くなるほど歪みが累積し、メディアスキューなどを起こす場合があります。	データは中央に配置し印刷します。
横にデータを並べて印刷した場合		
 データ間	印刷する横方向でのデータ間に空白部が規則的に連続すると、巻取時にシワが発生し、成果物へ影響を与えることがあります。	データ間隔等を見直すか、データ配置を変えることで改善することができます。

RIP 上の画像データ設定について

Ver1.2 以上の RIP をお使いください。(対応バージョンの詳細は、販売店または弊社営業所にサービスコールしてお問い合わせください)

前後左右のデッドスペースのとり方を RIP で設定できるようになっていますが、デッドスペースを含む RIP データ範囲が有効作図範囲 (700×600) を超えると、RIP 上でアナウンスされます。また、本体「ゲンテンセッテイ」の X,Y 値 (初期値は 0,0) においても入力された数値を加算し、作図範囲内であるかを判別するようになっています。

エラーが出る場合、リモート時のデータ範囲をご確認ください。

作図中の確認

メディアセットの状態、メディアの特性、画像データの種類などにより、作図開始後の搬送状態が変化する場合があります。

2～3m 程度の連続印刷が安定するまで、状態を確認してください。

確認ポイント

以下を確認しても現象が解決しない場合、販売店または弊社営業所にサービスコールしてください。

ノズル抜けやミスト発生などは、UJF-706 取扱説明書をご覧ください。

現象	確認事項
まっすぐに搬送されていない	メディアが正しく中央にセットされているか確認してください。
	テーブル上に異物や粘着したものがないか確認してください。
	もとのメディアが歪んでいないか確認してください。
印刷物上にシワや歪みが発生している	ランプの光量を確認してください。
	メディアのセット位置や印刷データの配置を確認してください。
	もとのメディアが歪んでいないか確認してください。

日常のお手入れ

メンテナンス作業は、装置を快適にかつ安定した状態でお使いいただくための大切な作業となります。

以下の項目は、作図の前後に必要な応じて実施してください。

1. テーブルの清掃

- 異物、粘着物やインクなどは除去してください。
- 必要に応じてエチルアルコールで拭き取ってください。
- 高いヘッドギャップで使用すると、ミストがメディア幅外のテーブル吸着穴で集塵され、堆積することがあります。ミストが堆積した場合、カッターの刃などで盤面を傷つけないよう、そぎ落としてください。

2. プリンタの日常のお手入れ (UJF-706 取扱説明書をご覧ください)

- ヘッドクリーニング
- フラッシング BOX
- ワイパーゴム
- ホワイトメンテナンス

その他の注意点

現象・注意事項	原因・対処方法
メディアカット動作時などに吸着プレートのバキューム（吸引）をOFFにした際、メディアが自然に滑り出してしまう	装置には滑り止め機構がついていますが、メディア巻取側と繰出側の紙管直径の相違が大きい場合、テンションバーの前後重量バランスを崩すことがあります。メディアが自然に滑り出してしまう場合、手を添えるなど適宜対応してください。
裏面印刷時の繰出側のワнтаймロックについて	裏面印刷仕様のメディアは、繰出側メディアセット時にワнтаймロック機能を使用できません。ストッパ機能が必要な場合、回転ロックレバーとホルダ固定レバーをご使用ください。
ホルダ固定スイッチで回転ロックがうまくかからない	オプションロールユニットの構造上、駆動部のギヤの噛み合いにてロックとロック解除を行なっています。ギヤの噛み合いの山と谷においてロック時の当たり方によっては入りにくい場合があります、ホルダー部（またはメディア）を数ミリ回転させると、ロックがかかります。

